

麻疹の話

醫學士 石塚 保吉

此春から非常に麻疹がはやつて居ります。東京全市に亘て近年希な流行でした。中には随分ひどいのもありました。麻疹の手當ては誰れも知て居る事ではありますが、麻疹だからなど、油断してうつちやつておくのはよろしくありません。無事にすむ時はよろしいが、わるくすると非常に恐ろしい事になります。肺炎になつたりすると甚だ危険なのです。殊に滿一年にもならない幼児は大抵餘病を起して中には、それが爲めに斃れるものもありますから、よく注意しなければなりません。

麻疹のはじめの徴候は、最初熱が出て、眼に血膜炎を起して涙が出る、目脂が出る、鼻がつまるその次に咳が出て、口の中は赤く充血して、顎の粘膜に乳かすのやうな斑點がつきまゝ、此斑點をコリツブ斑といふのですが、之が麻疹の特徵で、

之と熱があれば麻疹と斷定して間違ひはありません。そして上顎に赤いポツ／＼が出来ます。麻疹とわかつたらなるべく寒氣にあてないやうに氣をつけなければなりません。前に述べた徴候があらはれてから二三日立つ中に發疹が顔から首のあたりから全身に廣がつて來ます。その時も早く氣がついて、暖かな部屋に入れて着物も十分に着せてよく手あてをしておけば、發疹も早く、快復も早いのですが、眞違へて冷したり、知らないでかまはず寒い中をつれ歩いたりすると、麻疹が内攻して、氣管支加多留、肺炎、中耳炎、腸加多留などの餘病を發します。殊に肺炎が多いやうです、そして容易になほりません、斃れる人は多く之れで斃れるのです。麻疹は暖めるといふ事が最大事なのですが、着物を暖かく着せただけではいけません。

ん。暖かい部屋に入れて寒さにあはせないやうに注意する事が肝要です。かういふ風に注意をして居ると経過は必ずよろしい。普通、餘病さへ出なければ、経過は短かいもので發疹が了つてから三四日目位からだんくひいて、熱も下つて來るものです。無難にゆけばそのまゝ全快してしまひます。三日経つても熱がひかない不相變熱が高いといふやうな時は餘病の起つたしるしであるから、大に警戒を加へねばなりません。

食事の注意

麻疹の餘病として重い腸加多留を起す事がありますがさういふ場合には、牛乳、おも湯、葛湯の如き流動物をとらせて其以外のものを與へない方がよろしい。食物で失敗つて大に困る事があります。

傳染の豫防

一軒の家に麻疹がは入ると大概子供全體にひろがるやうです。氣がついて隔離する時は遅いかも

しれませんが、一年未滿の幼児は重症になりやすいから、なるべく之れを遠ざけるやうにするがよろしい。

花見時の衛生

これからは花見時でだんく氣候が暖かになつて來ますから、寒い時とは病氣の種類がかはつて來ます。今までは呼吸器病が主であつたのが、これから追々腸胃の病氣にかはつて來るのです。恰度草木が芽を出すやうに細菌が勢力を振ふのですから、よほど食物に氣をつけなければなりません。殊に花見時人込みの中で粗雑な飲食物を取つて胃腸をこはす例は少くありません。雑沓の場所に出張して居る店は責任がないから、賣りさへすればよいと云ふ主義で粗惡なものや亂暴なものを置いております。

花見は樂しむのが主であるのに病氣になつては引きあひませんから、食物はなるべく自宅から持參するといふやうにしたならよからうと思ひます

もし飲食店に入るならばなるべく雑沓の店を避けて信用のある店にするがよいと思ひます。種類もなるべく熟煮してあるものを選ぶがよろしい。餡氣のものはよろしくありません。此の時節は殊に黴菌が繁殖して居るのですから、少しでも悪いものを食べると直に腸胃を痛めるのです。花見もなるべく人の雑沓しない郊外に於てするのが望ましい事です。

汐 干 狩

汐干狩など海の中へはいつて行くのであるから却て遊びにはよいかと思ひます。寒かつたり風があつてはいけません、いゝ天氣などはよい遊びだらうと思ひます。埃も立たずいゝ空氣を吸ふ事も出来て健康の爲めによほどよいと思はれます。

○本會夏期講習會

フレーベル會夏期講習會は八月、全國幼稚園關係者大會に引つゞき、東京女子高等師範學校内に於て開催の豫定であります。尙詳細は本誌次號に於て發表いたします。大會出席と共に多數の來會を希望します。

○三田谷氏著智力検査法

ドクトル三田谷啓氏は兒童智力検査の普及をはかる爲其の方法を詳述せる『智力検査法』及び之れに使用すべき『智力検査函』を著はされました。同國は佛蘭西の心理學者ビネー、シヨンの方法に據り我國兒童に適切なる様改訂せられたるもので、三歳より十二歳に至る兒童に適用する様に出来て居りますから、幼稚園等に於て此の研究をする場合にも至極く便利であります。(東京本郷區西片町十番地兒童書院發行、定價『智力検査法』金四十錢『智力検査函』金六拾錢)